

第 23 号

発行
山形県立鶴岡中央高等学校
黎明同窓会
鶴岡市大宝寺字日本国410
0235 (25) 5723

印刷
印 刷
杉 葉 堂 印 刷
0235 (22) 5538

黎明

同窓会だより れいめい
山形県立鶴岡中央高等学校



同窓会、半端ない。

昨年2019年8月14日に「鶴岡中央高校2012年卒業生同窓会」を開催いたしました。2009年の入学、言わば私たちの出会いから10年の節目の年に、旧友や恩師と思い出を語り合う場を設けたいと考え、有志メンバーにより2018年5月に同窓会実行委員会を発足する運びとなりました。

本同窓会は、「半端ない同窓会」をコンセプトとして、懐かしさを越えたエンターテインメントの創造を目指し、1年以上の準備期間を設けました。細かな予算編成、卒業生31名全員の連絡先調査、SNSなどインターネットを活用した案内や出欠確認、より多くの方に出席をいただくためのCM制作など、実行委員全員でアイデアを共有しながら企画を進めてまいりました。同窓会当日には、結婚披露宴会場のような本

格的な装飾、当時の制服やクラスTシャツなどの懐かしい展示コーナー、開会直前のウェルカムパーティー開催など、細部にまでこだわった、工夫を凝らした空間づくりができたのではないかと考えております。

この度の同窓会には、約100名の方にご出席をいただき、無事盛会となりましたこと、あらためて嬉しく思っております。出会いから10年の節目の年に、これまでの10年を振り返ると同時に、これからの10年を考

ご出席くださった皆さま、会場スタッフや各種業者の皆さま、補助金をいただきましたさまに黎明同窓会さまに心より感謝申し上げます。

実行委員



編集後記

新型コロナウイルス感染症という誰もが経験した事のない国難を抱え、同窓会といたしましても状況を踏まえて慎重に話し合いを持ちました。しかし、緊急事態宣言が解除された今現在、終息の見通しが立たず、第二・第三波が懸念される状況であります。

マスク着用、除菌消毒、三密回避、体力維持等「新しい生活様式」の制限ある中で、今年度、同窓会総会中止の決断に至りました。

「黎明」会報及び「満開の桜」写真は是非ご覧いただければ幸いです。この度も快くご寄稿頂き、本当にありがとうございました。

佐竹・記

会長の挨拶

富樫 洋子



新緑が美しい季節となり過ごしやすい生活が送れる日々となりましたが、国内外での新型コロナウイルス感染拡大で不安な日々が一転してしまいました。この様な状況下で、会員の皆様におかれましては健やかに過ごしていただいていることを切に願っています。

本来であれば門出を祝う卒業式も出席者が制限され、同窓会は入会式なしで二六一名の新会員を迎えました。また入学式も同様ですが、新入生として今年度は久しぶりに定員数の二四〇名に生徒たちが中央高校で学ぶ意欲を持って入学しました。しかし、休校が長引き全員が顔を合わせて学ぶ事や友人作りが出来ずに、窮屈な時を過ごさざるを得ない辛抱の時間を送りましたが五月末から通常生活に戻り安堵しています。様々な活動の制限から部活動での発揮の場も軒並みに中止され、何とも言えない無念さを覚えますが、諦めることなく暗闇の中だからこそ見える光を見つけて頑張りたいと思っております。

二十二年目に入った同窓会も役員継承や活動の裾野を広げて、多くの会員に参加出来る様に話し合っています。役員のみでは見方や考えが偏ってしまうことも多々ありますので、皆様の意見を取り入れて今後も活動を行きますので宜しく願います。そのためには、理事の皆さんの会議への参加と会員皆様の総会への参加が大きな力となります。今年度の総会はこの様な情勢のため中止いたしました。

新型コロナウイルスと上手につき合いながら皆様健康第一に過ごして行きましょう。来年は生徒たちの歓喜の声や同窓会会員の元気な声を聞けることを楽しみにしています。

最後に、本校の益々の発展と会員皆様のご健勝とご活躍を祈念申し上げます。

校歌

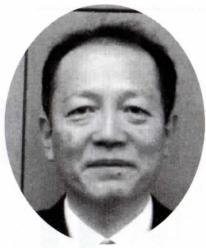
「輝いて永遠に」

作詞 かわせ・たまみ
作曲 中田喜直

光は空に 黎明大地に
若い生命の 季節はわれらに
いま 集いより 新しく
英知の泉 拓ひらく時
ああ 庄内に吹く風は 爽やかなみどり
ここに立ち 自主の旗 ともに かがいで
輝いて 今日を記そう
しなやかに さあ！
輝いて 輝いて 永遠に
われらが 鶴岡中央高等学校



赤川土手の桜並木



「黎明」に寄せて

校長 遠田 達浩

令和二年度は、例年とは大きく異なる形でのスタートとなりました。新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、全国に緊急事態宣言が出され、山形県においても多くの罹患者が出ました。学校においてもこれまで経験したことのない事態となり、三月上旬から臨時休業が続き、すべてにおいて普段通りに進めることができないうちに、卒業式は卒業生と教職員のみで、入学式は新入生と教職員及び保護者は各家庭一名に限定してどうにか実施することができました。生徒は自宅学習が二ヶ月以上も続いたこともあり、学習機会や進路先の保証、心のケアなど多くのことが課題となっています。特に、部活動では各種大会や発表会の中止があり、今後の学校生活において生徒の活躍の場をどれだけ確保できるのかと行事の見直し

をはじめとし、頭を悩ませている状況です。今、原稿を書いているのが五月下旬なのですが、県内では新たな感染者が出ていない状況もあり、五月二十五日から通常の授業を再開できるようになりました。生徒が登校する姿や授業を受けている様子を毎日見ることができ、ようやく学校らしい雰囲気になってきました。この「黎明」が発行された頃には、新しい生活様式の下、活発な教育活動が行われていることを切に願うばかりです。

今回のような状況であればこそ、同窓生や地域・保護者の皆様との連携・協力を大切にしながら、教育活動を進めていくことがこれまで以上に必要であると考えております。同窓生の皆様には、ご支援の程よろしくお願いいたします。



「蘭の如く」永久に咲きほこりて

山口 邦雄 先生

鶴南からの異動で家政高へ赴任したのは、私が四十七歳の時だった。それまでは外から感じた家政高(生)のイメージは、「逞しく元氣洗刺の塊」というものだった。私はソフトテニス部の顧問を務めていたこともあって、いつも家政高とはハードな戦いを強いられた。「しつこく、粘つこく、絶対に勝負を諦めない」という魂を、嫌なほど感じさせられた。(ゲームセット)の声がかかるまでは油断できなかった。家政高の敷地は狭く、校舎は年季が入っていた。しかし、それを気にする風もなく日常を送っている職員・生徒の姿が奇異に思えた。そういう私も、夏休みに入る頃には違和感を感じなくなっていた。なんといつても学校祭の一環として毎年恒例となっている「ファッションショー」には感動した。

学校祭は結果もあるが、それが創り(作り)上げられていく過程にこそあるように思う。教師と一体となって、悩み・苦しむ中で妥協なく激論を交わしながら、その感動を共有し合うのである。私は三年間という短い間ではあったが、すっかり家政高色に染められてしまった。家政高色とは「蘭の如く、決して派手ではないが、ひっそりと気高く、強く咲きほこる姿」である。



西高の9年間

國井 美保 先生

西高には平成元年(1989)から西高を閉じるまで9年間いたことになる。担任した彼ら・彼女たちは45歳。社会人としてそれぞれ生活しているのだから安心していい。副担任した学年で源氏物語を授業し、その成果としての生徒たちがクオリティ高い作品(具合合わせや漫画源氏物語など)を残してくれたこと。ウエイトリフティング部の顧問として3回インターハイに付添いで行ったこと。新採教員として赴任してきた若い先生方との交流。今思えば、愉しいことだった。

後半の5年間は西高をすっかり閉じて、新しい学校に引き継ぐことが私の役目かなと感じていた。忘れられない光景がある。平成10年3月31日、廃棄処理してもらった物を体育館の真ん中に集めて、事務長と鍵をしめ、その足で備中街道を車で飛ばして日本国の中央高校に行き、新しい学校の準備を始めたこと。その前後はあまりの忙しさに記憶にはっきり残っていないが、この事はまぶたにくっきりと焼きついている。

私自身は、中央高校にはじめの3年間在籍し、50歳で退職した。その後55歳で東北公益文科大学の大学院に入り、まちキネや藤沢周平記念館を設計した高谷時彦教授のもとで「まちづくり」を学び、今年の3月まで16年間学外研究員として高谷研究室で様々な活動をしてきた。現在は、「大山文化財を愛する会」「おうら観光ボランティアガイドの会」の副会長をしている。私の生まれた地、西高があった地大山とこれからも関わっていききたい。

総会に参加して

同窓会に参加して



平成21年中央高卒 井納 琢磨

高校を卒業し十年が過ぎた。友人との食事の場で笑い話の種としていたことが、急に実感を伴ったのは同窓会のお知らせが届いてからでした。高校生だった頃は一日が長く感じ、一年先は遠い未来のように感じていた気がする。大人になるにつれて仕事に追われ、時間に追われ、気がつけば三十歳を目前とする今年。こうした機会がなければ当時の同窓生とも会わないかもしれない。そう思い立ち同窓会に参加することにしました。

映かせ、とても楽しい時間を過ごすことが出来ました。参加人数が少なかつたことが唯一残念なことでありましたが、会社では中堅層として多忙になる年齢になってきていることや、家庭を持ち、子を持つ親になっていく人も多い年齢というところも考えれば仕方ないことかもしれません。これからまた年齢を重ねていった先に、集まる機会があることを、その時を楽しみにしたいと思います。

最後になりましたが、鶴岡中央高校と黎明同窓会の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

同窓会を再会の機に



昭和55年西高卒 井上 克浩

当日は恩師とも再会する事も出来、互いの近況を報告し合い、当時の話に花を

当番学年幹事から十数年

の時が流れ、久しぶりに参加した同窓会。総会出席者は22名と予想以上に少なく、田中副会長の「少数精鋭での総会」とのあいさつで幕を開けた。

昨年、中央高校は創立20周年という節目を迎えた。役所勤めの傍ら、こだわりの米づくり、野球の審判など、割と暇のない毎日が続いていくこともあり、失礼ながら創立行事も頭に留まらぬ始末。二人の息子達も結婚し、子育て最後の大事業も無事終わった。

高校卒業からあつという間の四十年。いざれ訪れることは承知していたが、何と早いこと早いこと。在学中は、剣道部に所属し、三年では部長を拝命。男女共に指導に当たったことを思い出す。厳しさの中にも和気藹々、充実した部活動だった。

毎年卒業生が加わり、同窓会の総数は増え続けるも

の、いかんせん皆忙しいからか同窓会出席者が比例して増えることがないという。酒を酌み交わすうちに、同窓魂が顔を覗かせ、昔を懐かしむ会話が花が咲く。同窓会を再会の機会として、連絡取り合って上手く利用する、そんな思惑を働かせてみるのも楽しくはないだろうか。



卒業生の思い出

新型



令和元年
中央高卒
伊藤 北斗

新型コロナウイルスの流行によって、様々なことが制限されています。そんな中、高校や大学などの授業形態が変化するなど、人の生活も新型になっていきます。私の場合、大学に進学したものの、新型コロナウイルス感染拡大防止による入学式の中止、更にはオンライン授業の導入など新たな友人関係を築くためのきっかけが失われ、未だ大学生という自覚を持つことができません。

そんな時、先生や友人と楽しく過ごした高校生活を思い出しました。あの時当

たり前だと思っていたイベントや行事なども今思い出すととても感動的なものでした。高校時代での行事は

もちろん、学校での日常生活も心に残っています。廊下や教室での友達との他愛のない会話に夢中になり、時には気づけば授業開始のチャイムが鳴ってしまい焦ったことなども良い思い出です。学習面では地域学習などを行う、キャリア探求もとても印象的です。私



は将来、地域政策に携わる仕事と考えており地域政策系の大学へ進学したため、中央高校での学習が今になってとても役立つものになっています。

このように中央高校での学びがこれからの私にとつてとても大事なものであったと実感しました。

人として学ぶ日々



令和元年
中央高卒
影澤 大哉

高校生活を振り返るとあつという間だったと思います。初めてのことがばかりで全ての瞬間が新鮮でした。

人との関係に慣れてくる

自分の目指す介護福祉士になることができるように頑張っていきたいです。

心の洗濯



昭和54年
西高卒
佐藤 豊継

私は、昭和54年3月鶴岡西高を卒業し、いよいよ「赤いちゃんちゃんこ」を着る還暦の年を迎えた。この度原稿依頼を受け、さてさて当時を思い返してみようものあまりにも遠い昔になってしまい、卒業アルバムを引っ張り出しおもむろ



場で肩を並べて仕事をしているが、お互いの還暦を祝いながら、これからもガンバローと二人で盛り上がった。

再会を楽しみにして



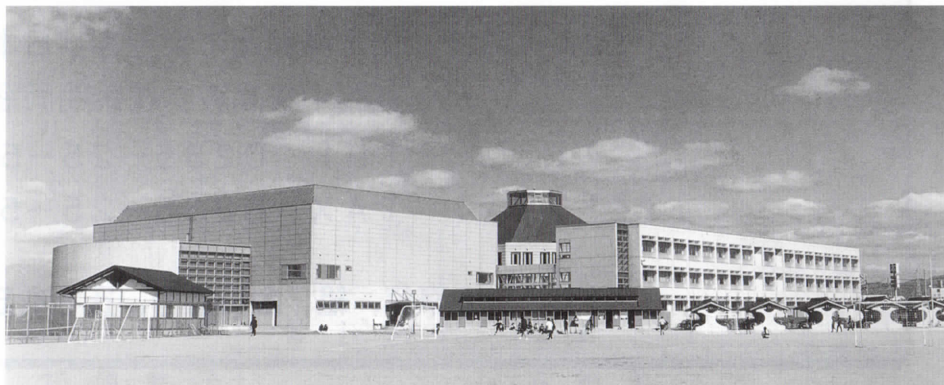
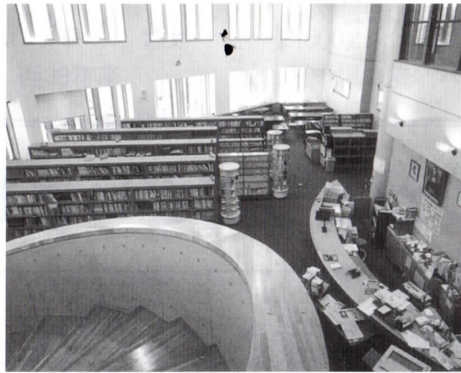
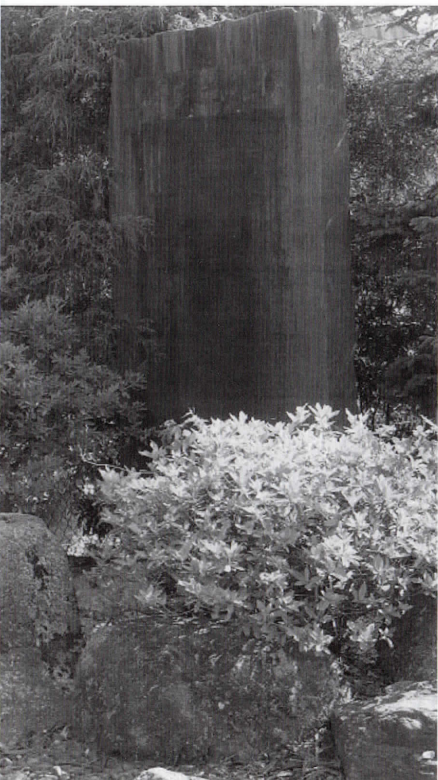
昭和46年
家政高卒
釵持 祐子

女子だけだった母校を卒業して50年がたちました。薄れゆく記憶の中で原稿を手にもろんな思い出が走馬灯の様に浮かんできます。

家族の送迎のない通学は旧7号線沿いをよく走って列車に乗り込んだものでした。何より苦手だった2時間続きの「被服」の時間でしたが縫い仕事は現在進行形で役立たせていただいています。校内合唱コンクールや運動会での組別応援合戦、それぞれの優勝は今でもワンチームになれた結果だった様な気がします。

二年前、某医院で同級生に会い懐かしさでつい話し込んでしまいました。もっと多くの方々と会いたいという思いから早速、近くに住む方々へ連絡をとりあい「にわかクラス会」を行うことができました。

もう68歳、まだ68歳と思いながらまもなく古希を迎えます。遠方に住む方々にも声かけして卒業以来の再会を楽しみに青春真っ盛りの孫達にいつばいの元気をもらいながら日々健康に気をつけて明るく過ごしていきたいと思っています。



令和元年度 会費納入者芳名簿

| | | | | | |
|--|--|---|--|---------------------------------|--------------------------------------|
| 旧如蘭支部 | 小幡 朋子 家高17回昭和40年卒 | 旧 西 高 | 田澤 あき子 里 義信 高田 政明 | 西50年卒 須藤 立 菅原 卓夫 佃 源治 | 中央平成13年卒 岩城 裕子 菅原 伸之 |
| 四高2回昭和25年卒 五十嵐 晴美 田 卷 和子 | 黒澤 朝恵 曾根 喜美子 野中 よし子 | 西27年卒 小林 民男 渡部 幸治 | 西43年卒 半澤 正昭 高嶋 恵 | 中央平成15年卒 佃 源治 清和 ふみ子 | 中央平成17年卒 石黒 誉九 藤本 大樹 |
| 家高3回昭和26年卒 菅原 豊美 | 家高20回昭和43年卒 佐々木 陽子 | 西28年卒 佐藤 憲二 | 松下 美知子 | 原 敏 | 中央平成20年卒 山本 寛之 |
| 家高6回昭和29年卒 笹原 悦子 | 中川 涼子 | 西29年卒 佐藤 勝士 | 原口 節子 | 村田 行正 | 中央平成21年卒 佐藤 源成 難波 みち |
| 家高8回昭和31年卒 五十嵐 常井 | 家高21回昭和44年卒 立石 たけ子 | 西31年卒 佐藤 文夫 | 我孫子 均 村瀬 友美子 | 桜井 茂 | 中央平成24年卒 田中 翔太郎 佐藤 叶望 弁納 琢磨 |
| 家高10回昭和33年卒 小野田 文子 菅沢 稔子 | 家高23回昭和46年卒 富樫 洋子 孫田 孝子 | 西34年卒 斎藤 忠男 高橋 義博 | 西44年卒 富樫 秀雄 | 西53年卒 日野 まゆみ | 中央平成28年卒 板倉 滉 小関 森陽 |
| 家高12回昭和35年卒 黒崎 幹子 佐藤 とし子 工藤 宣子 斎藤 宣子 草野 恵子 井上 節子 | 家高24回昭和47年卒 高橋 典子 三村 妙子 | 西37年卒 日下部 藤祐 菅原 賢一 加藤 常雄 | 西45年卒 鈴木 明彦 菅原 眞一 | 西54年卒 東海林 宏 | 中央平成29年卒 板倉 舜 宮野 晃 |
| 家高13回昭和36年卒 佐藤 嘉久子 尾崎 光子 | 家高25回昭和48年卒 倉沢 恵子 | 西38年卒 佐藤 丈六 佐藤 洲人 池原 清二 | 西46年卒 佐藤 多枝子 渡部 耕二 齋藤 仁幸 上林 幸 成田 光雄 五十嵐 俊一 | 西55年卒 井上 克浩 | 中央平成30年卒 橋本 将矢 |
| 家高14回昭和37年卒 高野 俊 佐藤 美和 | 家高30回昭和53年卒 佐藤 育 | 西39年卒 齋藤 勝元 石川 良也 遠見 昌圀 小野寺 晶夫 | 西47年卒 岩城 公志 | 西56年卒 平藤 泰順 | 中央平成31年卒 須藤 里菜 五十嵐 瑠斗 齋藤 風花 |
| 家高15回昭和38年卒 佐藤 よし子 | 家高31回昭和54年卒 川越 由美 | 西40年卒 渡部 明 中世古 精一 | 西48年卒 若松 祐 三浦 久敏 半澤 隆 小林 清美 丸市 明子 | 西57年卒 本間 美加 | |
| 家高16回昭和39年卒 小鷹 節子 佐藤 喜美子 長 照子 広瀬 多美 梅木 康子 大塚 和子 上原 玲子 | 家高33回昭和56年卒 小山田 真生 | 西41年卒 大滝 直樹 五十嵐 一利 富樫 貞夫 佐藤 まさ子 | 西49年卒 田中 俊彦 丸山 隆逸 東海林 良哉 叶野 重典 | 西58年卒 佐藤 聡 | 中央平成33年卒 安野 亮平 高橋 勇一 |
| | 家高36回昭和59年卒 小玉 節 佐藤 真由美 丸山 千賀 | 西42年卒 松浦 繁子 | | 西59年卒 鈴木 聡 | |
| | 家高44回平成4年卒 原田 裕美 | | | 西60年卒 榎本 陽一 | |
| | 家高46回平成6年卒 鈴木 友香 | | | 西61年卒 奥泉 公志 黒崎 浩矢 佐藤 徹 | |
| | 家高50回平成9年卒 上林 泉 | | | 西平成6年卒 井上 和歌奈 | |

中央高校

令和2年3月卒業
261名
全員納入

令和元年度 寄付者芳名簿

| | | | |
|--------------|---------------|--------------|--------------|
| 旧如蘭支部 | 門脇 律子 1,000円 | 佃 源治 10,000円 | 旧 職 員 |
| 富樫 洋子 2,000円 | 旧 西 高 | 高橋 義博 1,000円 | 河口 昭俊 2,000円 |
| 佐藤真由美 3,000円 | 田中 俊彦 3,000円 | 小林 清美 1,000円 | 岩本 篤 2,000円 |
| 黒崎 幹子 2,000円 | 半澤 正昭 10,000円 | 加藤 常雄 1,000円 | 佐久間辰巳 2,000円 |
| 黒澤 朝恵 1,000円 | 丸山 隆逸 3,000円 | 富樫 秀雄 1,000円 | 五十嵐留美 2,000円 |
| 笹原 悦子 1,000円 | 東海林良哉 8,000円 | 丸市 明子 3,000円 | 笹原 由香 2,000円 |
| 広瀬 多美 3,000円 | 遠見 昌圀 3,000円 | 佐藤 丈六 2,000円 | 松田 大樹 3,000円 |
| 梅木 康子 1,000円 | 高嶋 恵 2,000円 | 小野寺晶夫 1,000円 | 岡田 照子 2,000円 |
| 菅沢 稔子 3,000円 | 小林 民男 2,000円 | 我孫子 均 3,000円 | 現 職 員 |
| 菅原 豊美 3,000円 | 齋藤 仁幸 3,000円 | 渡部 明 2,000円 | 遠田 達浩 2,000円 |
| 五十嵐晴美 3,000円 | 村田 行正 1,000円 | 五十嵐俊一 8,000円 | 成澤 弘之 2,000円 |
| 高野 俊 1,000円 | 岩城 公志 1,000円 | 半澤 隆 2,000円 | 笹原由香里 2,000円 |
| 小幡 朋子 5,000円 | 平藤 泰順 3,000円 | 中央高校 | |
| 田卷 和子 1,000円 | 齋藤 勝元 8,000円 | 藤本 大樹 1,000円 | |
| 五十嵐常井 2,000円 | 菅原 賢一 3,000円 | 小関 森陽 500円 | |
| 草野 恵子 1,000円 | 五十嵐一利 3,000円 | 板倉 滉 1,000円 | |
| 井上 節子 1,000円 | 菅原 卓夫 3,000円 | 板倉 舜 1,000円 | |

— ありがとうございます —

姓・住所など変更のあった時は是非下記までお知らせ下さい。

〒997-0017 山形県鶴岡市大宝寺字日本国 410
鶴岡中央高等学校黎明同窓会事務局 宛
TEL 0235-25-5723
TAX 0235-25-5733

★卒年、組、会員番号、氏名を忘れずに記載して下さい。

令和2年度活動方針(案)

- 1 鶴岡中央高校への関心の高まりを力に、会員相互の親睦と更なる母校の発展に寄与します。
- 2 役員改選を機に、新体制の下、同窓会運営の在り方を模索します。
- 3 引き続き中央高校卒業生の同窓会運営への参画を促し、組織と活動の活性化を目指します。

令和2年度 一般会計予算書(案)

自 令和2年6月1日
至 令和3年5月31日

【収入の部】 (単位 円)

| 項目 | 本年度予算額 | 前年度予算額 | 増減(△) | 備考 |
|-------|-----------|-----------|-----------|---|
| 1 入会金 | 1,290,000 | 1,315,000 | △ 25,000 | 令和3年3月卒258名×5千円 |
| 2 年会費 | 756,000 | 826,000 | △ 70,000 | 令和3年3月卒258名×2千円=516千円 一般会員120名×2千円=240千円 |
| 3 寄附金 | 100,000 | 100,000 | 0 | |
| 4 繰越金 | 924,993 | 613,976 | 311,017 | 前年度繰越金 |
| 5 雑収入 | 7 | 267,024 | △ 267,017 | 預金利息 |
| 合計 | 3,071,000 | 3,122,000 | △ 51,000 | |

【支出の部】 (単位 円)

| 項目 | 本年度予算額 | 前年度予算額 | 増減(△) | 備考 |
|------------|-----------|-----------|-----------|---|
| 1 運営費 | 764,000 | 767,000 | △ 3,000 | |
| (1) 事務費 | 99,000 | 120,000 | △ 21,000 | 同窓会用封筒 5万円 コピー用紙代 2万円 事務用品 2.9万円 |
| (2) 事務委託費 | 390,000 | 390,000 | 0 | 団費職員賃金 |
| (3) 備品費 | 5,000 | 5,000 | 0 | |
| (4) 通信費 | 35,000 | 37,000 | △ 2,000 | 会議案内用ハガキ・切手代 |
| (5) 会議費 | 60,000 | 50,000 | 10,000 | 各種役員会等 |
| (6) 旅費 | 135,000 | 135,000 | 0 | 関東支部出席 学校2名 同窓会3名 |
| (7) 雑費 | 40,000 | 30,000 | 10,000 | 入会式生花 2万円 ゆうちょ銀行払込料金等 2万円 |
| 2 事業費 | 1,672,000 | 2,020,000 | △ 348,000 | |
| (1) 総会費 | 530,000 | 550,000 | △ 20,000 | 総会用ラベル等 2万円 総会費 30万円 総会案内ハガキ印刷代 18万円 広告費 3万円 |
| (2) 会報発行費 | 882,000 | 910,000 | △ 28,000 | 会報用名簿出力等 19万円 印刷費 33万円 会報配送料 30万円 会報封入封緘 4万円 編集諸費 2.2万円 |
| (3) 卒業記念品費 | 120,000 | 120,000 | 0 | 証書ホルダー |
| (4) 後援会賛助金 | 100,000 | 400,000 | △ 300,000 | |
| (5) 同期会開催費 | 30,000 | 30,000 | 0 | |
| (6) 慶弔費 | 10,000 | 10,000 | 0 | |
| 3 基金積立金 | 600,000 | 300,000 | 300,000 | |
| (1) 基金積立金 | 300,000 | 300,000 | 0 | |
| (2) 財政調整基金 | 300,000 | 0 | 300,000 | |
| 4 雑費 | 25,000 | 25,000 | 0 | |
| 5 予備費 | 10,000 | 10,000 | 0 | |
| 合計 | 3,071,000 | 3,122,000 | △ 51,000 | |

令和元年度活動報告

- 1 鶴岡中央高校への関心の高まりを力に、会員相互の親睦と更なる母校の発展に寄与しました。
- 2 後援会活動の一環として、全国高等学校総合文化祭参加を讃え、参加費の一部を支援しました。
- 3 引き続き中央高校卒業生の同窓会運営の参画を促し、組織と活動の活性化を目指しましたが、残念ながら総会には当番学年幹事の協力を得ることができませんでした。
- 4 同窓会運営の現状を鑑み、運営の在り方を模索しました。

令和元年度 一般会計決算書

自 令和元年6月1日
至 令和2年5月31日

【収入の部】 (単位 円)

| 項目 | 予算額 | 収入済額 | 増減(△) | 備考 |
|-------|-----------|-----------|----------|--|
| 1 入会金 | 1,315,000 | 1,305,000 | △ 10,000 | 令和2年3月卒 261名 ×5千円 |
| 2 年会費 | 826,000 | 802,000 | △ 24,000 | 令和2年3月卒 261名 ×2千円 令和元年度 280,000円 |
| 3 寄附金 | 100,000 | 149,500 | 49,500 | |
| 4 繰越金 | 613,976 | 613,976 | 0 | 前年度繰越金 |
| 5 雑収入 | 267,024 | 266,327 | △ 697 | 20周年記念事業特別会計精算還付金 266,317円 預金利息 10円 |
| 合計 | 3,122,000 | 3,136,803 | 14,803 | |

【支出の部】 (単位 円)

| 項目 | 予算額 | 支出済額 | 増減(△) | 備考 |
|------------|-----------|-----------|-----------|--|
| 1 運営費 | 767,000 | 618,645 | △ 148,355 | |
| (1) 事務費 | 120,000 | 34,024 | △ 85,976 | 同窓会用封筒 3.3万円 事務用品 300円 |
| (2) 事務委託費 | 390,000 | 342,000 | △ 48,000 | 団費職員賃金 |
| (3) 備品費 | 5,000 | 0 | △ 5,000 | |
| (4) 通信費 | 37,000 | 9,190 | △ 27,810 | 会議案内用ハガキ、切手代 |
| (5) 会議費 | 50,000 | 52,435 | 2,435 | 各種役員会等 |
| (6) 旅費 | 135,000 | 145,000 | 10,000 | 関東支部出席 2.3万円*2名 3.3万円*3名 学校3名、同窓会2名出席 参加費(学校のみ)1万円*3名 交通費(鶴岡~東京都内)2.3万円*5名 |
| (7) 雑費 | 30,000 | 35,996 | 5,996 | 卒業式生花 1.65万円 ゆうちょ銀行払込料金等 1.9万円 |
| 2 事業費 | 2,020,000 | 1,276,019 | △ 743,981 | |
| (1) 総会費 | 550,000 | 193,587 | △ 356,413 | 総会案内ラベル等 1.5万円 総会費 4.3万円 総会案内ハガキ印刷代 10.8万円 広告費 2.7万円 |
| (2) 会報発行費 | 910,000 | 544,378 | △ 365,622 | 会報印刷費 24万円 編集諸費 1,600円 会報発送・封入・封緘 30.4万円 |
| (3) 卒業記念品費 | 120,000 | 117,450 | △ 2,550 | 証書ホルダー |
| (4) 後援会賛助金 | 400,000 | 400,000 | 0 | 全国総文祭参加賛助金 |
| (5) 同期会開催費 | 30,000 | 20,000 | △ 10,000 | 平成24年3月卒同期会開催 |
| (6) 慶弔費 | 10,000 | 604 | △ 9,396 | 弔電 |
| (7) 広報費 | 0 | 0 | 0 | |
| 3 基金積立金 | 300,000 | 300,000 | 0 | |
| (1) 基金積立金 | 300,000 | 300,000 | 0 | |
| (2) 財政調整基金 | 0 | 0 | 0 | |
| 4 雑費 | 25,000 | 17,146 | △ 7,854 | 関東支部開催祝金等 1.7万 |
| 5 予備費 | 10,000 | 0 | △ 10,000 | |
| 合計 | 3,122,000 | 2,211,810 | △ 910,190 | |

収入 3,136,803円 - 支出 2,211,810円 = 残金 924,993円を次年度へ繰越

令和元年度 各特別会計決算書

自 令和元年6月1日
至 令和2年5月31日

1 基金積立金特別会計 (単位 円)

| 項目 | 予算額 | 収入済額 | 増減(△) | 備考 |
|-------|---------|---------|-------|-------|
| 1 繰越金 | 586,514 | 586,514 | 0 | 積立金残金 |
| 2 積立金 | 300,000 | 300,000 | 0 | |
| 3 雑収入 | 486 | 5 | △ 481 | 預金利息 |
| 合計 | 887,000 | 886,519 | △ 481 | |

【支出の部】 (単位 円)

| 項目 | 予算額 | 支出済額 | 増減(△) | 備考 |
|----|-----|------|-------|----|
| 合計 | 0 | 0 | 0 | |

収入 886,519円 - 支出 0円 = 差引残金 886,519円 次年度へ繰越

記録 ※平成20年度 10周年記念事業協賛金 100万円の内 786,000円支出
※平成27年度 創立20周年記念事業準備事務費 145,800円支出
※平成30年度 創立20周年記念事業負担金 1,500,000円支出

2 環境緑化・施設整備協力金特別会計

【収入の部】 (単位 円)

| 項目 | 予算額 | 収入済額 | 増減(△) | 備考 |
|-------|-----------|-----------|---------|----------------------|
| 1 繰越金 | 3,131,303 | 3,131,303 | 0 | 協力金残金 |
| 2 協力金 | 263,000 | 261,000 | △ 2,000 | 令和2年3月卒業生261名×1,000円 |
| 3 寄附金 | 0 | 0 | 0 | |
| 4 雑収入 | 697 | 25 | △ 672 | 預金利息 |
| 合計 | 3,395,000 | 3,392,328 | △ 2,672 | |

【支出の部】 (単位 円)

| 項目 | 予算額 | 支出済額 | 増減(△) | 備考 |
|-------|---------|---------|---------|-------|
| 1 運搬費 | 331,000 | 329,691 | △ 1,309 | 太鼓運搬費 |
| 合計 | 331,000 | 329,691 | △ 1,309 | |

収入 3,392,328円 - 支出 329,691円 = 差引残金 3,062,637円 次年度へ繰越
※協力金は平成18年3月卒業生から一人千円加入していただいております。

記録 ※平成20年度 サッカーグラウンド整備 100万円支出
※平成22年度 学校へ絵画贈呈時の運搬費等 124,884円支出
※令和元年度 天魂太鼓部 全国総合文化祭参加の太鼓運搬費 329,691円支出

3 財政調整基金積立金特別会計

【収入の部】 (単位 円)

| 項目 | 予算額 | 収入済額 | 増減(△) | 備考 |
|-------|-----------|-----------|-------|--------|
| 1 積立金 | 0 | 0 | 0 | |
| 2 繰越金 | 2,500,000 | 2,500,000 | 0 | 前年度繰越金 |
| 3 雑収入 | 1,000 | 13 | △ 987 | 預金利息 |
| 合計 | 2,501,000 | 2,500,013 | △ 987 | |

【支出の部】 (単位 円)

| 項目 | 予算額 | 支出済額 | 増減(△) | 備考 |
|-------|-----|------|-------|----|
| 1 繰越金 | 0 | 0 | 0 | |
| 合計 | 0 | 0 | 0 | |

収入 2,500,013円 - 支出 0円 = 差引残金 2,500,013円 次年度へ繰越

役員改選について

山形県立鶴岡中央高等学校黎明同窓会 会則第6条第1項の規定により、次の方々を会長、副会長及び監事として選出させていただきたく、提案します。

記

| | | | |
|-----|-------|-----------|---------|
| 会長 | 田中 俊彦 | 旧鶴岡西高等学校 | 昭和49年卒業 |
| 副会長 | 佐藤真由美 | 旧鶴岡家政高等学校 | 昭和59年卒業 |
| 副会長 | 吉住 年正 | 旧鶴岡西高等学校 | 平成元年卒業 |
| 副会長 | 佐藤 将 | 鶴岡中央高等学校 | 平成18年卒業 |
| 監事 | 安在 与八 | 旧鶴岡西高等学校 | 昭和48年卒業 |
| 監事 | 佐藤 和宏 | 旧鶴岡西高等学校 | 昭和55年卒業 |

総会資料(議案第1号・2号・3号)について、第1回常任理事会・理事会合同会議(6月9日開催)で承認されました。ご不明な点がございましたら、令和2年8月21日まで黎明同窓会事務局にお問い合わせください。ご連絡が無い場合は、承認されたことといたします。

[改選後の新体制]

役員名簿 (令和2年度・3年度)

| 役職名 | 氏名 | 備考(卒業年) |
|--------|-------|---------|
| 顧問(学校) | 遠田 達浩 | 中央高校長 |
| 顧問 | 遠見 昌園 | 2代会長39 |
| 顧問 | 坂 善彦 | 3代会長48 |
| 顧問 | 富樫 洋子 | 4代会長46 |
| 顧問 | 半澤 正昭 | 元幹事長43 |

| 役職名 | 氏名 | 備考(卒業年) |
|--------------|-------|---------|
| 常任理事(会報編集委員) | 松浦 繁子 | 42 |
| 常任理事(会報編集委員) | 高嶋 恵 | 43 |
| 常任理事(会報編集委員) | 菅原とり子 | 50 |
| 常任理事(会報編集委員) | 佐竹 俊一 | 62 |
| 常任理事(会報編集委員) | 常田 拓哉 | H24 |
| 常任理事(総会委員) | 佐藤真由美 | 59 |
| 常任理事(総会委員) | 榎本 陽一 | 60 |
| 常任理事(総会委員) | 松田 美栄 | 60 |
| 常任理事(総会委員) | 高橋ちや子 | H1 |
| 常任理事(総会委員) | 鈴木 友香 | H6 |
| 常任理事(総会委員) | 長谷川 亮 | 47 |
| 常任理事(総会委員) | 本間 美加 | 57 |
| 常任理事(総会委員) | 菅原 大 | H12 |
| 常任理事(総会委員) | 佐藤 貴士 | H14 |
| 常任理事(総会委員) | 大滝 直樹 | 41 |
| 常任理事(総会委員) | 保科 美幸 | 56 |
| 常任理事(総会委員) | 原田 裕美 | H4 |
| 常任理事(総会委員) | 長南 雄太 | H24 |
| 関東支部長 | 齋藤 仁幸 | 46 |
| 監事 | 安在 与八 | 48 |
| 監事 | 佐藤 和宏 | 55 |

| 役職名 | 氏名 | 備考(卒業年) |
|--------|-------|----------|
| 会長 | 田中 俊彦 | 49 |
| 副会長 | 佐藤真由美 | 59 |
| 副会長 | 吉住 年正 | H1 |
| 副会長 | 佐藤 将 | H18 |
| 幹事長 | 丸山 隆逸 | 49 |
| 副幹事長 | 東海林良哉 | 49 |
| 幹事 | 長南 雄太 | H24 |
| 幹事 | 常田 拓哉 | H24 |
| 幹事(学校) | 東海林 宏 | 中央高教頭 |
| 幹事(学校) | 佐藤 りか | 中央高教頭 |
| 幹事(学校) | 成澤 弘之 | 中央高総務広報課 |
| 幹事(学校) | 笹原由香里 | 中央高総務広報課 |
| 幹事(学校) | 小笠原秋江 | 中央高総務広報課 |

学校PR



鶴岡中央高等学校
生徒会長
松浦丈一郎

鶴岡中央高校は、普通科と総合学科の二つの課程に分かれています。普通科では大学進学を中心に勉強に励んでいます。普通科ではキャリア探究という授業があり、大学やその学部、職業などを調べ将来の進路について真剣に考え、知識を深めています。総合学科では系列に分かれ専門的な学習をして、進路実現に向けてがんばっています。特に年一回の総合学科発表会で知識を深めています。今年の生徒会はいさつに力を入れています。社会に出てからも活用し、習慣化できるように活動内容を具体的に決定し、継続的に取り組んでいます。また、募金活動やペットボトル回収も行い、日々思いやりを大切にしています。よりよい中央高校を目指しがんばります。

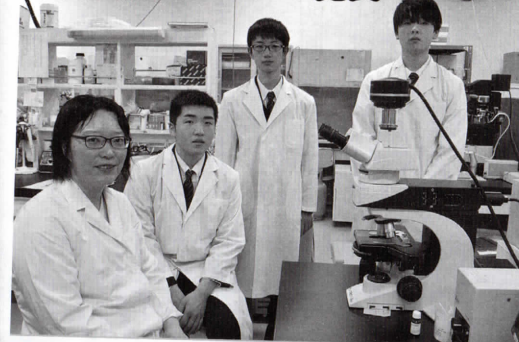
シルクガールズに お顔そりボランティア



作品題名書道展



先端研SLFN11発表



鶴岡中央高 美術デザイン系列展



鶴岡中央手話交流会



バリアフリー



荘内日報掲載

関東支部だより



関東支部長
齋藤 仁幸

四月七日、内閣官房から新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が発出されました。関東支部「同窓生のつどい」実行委員会を四月十一日に控えていましたが、感染症対策で三密回避の指導があり流会になりました。事態の推移を見守りながら実行委員会から開催に対する意見を収集してきました。しかし、五月四日に事態宣言の延長が発出され出口が遠退いてしまいました。

「同窓生のつどい」参加者平均年齢(七十三・五歳)を考えると、開催を決定したとしても三密は避けられず、感染・罹患へのリスクを伴うことは否めず、たとえ年一回の再会を楽しみにしているとしても、この状況下で参加する会員がいるかは甚だ疑問です。

自粛要請が緩和されても第二波への警戒から三密を避け、首都圏県境を越えた移動の自粛は促されるようです。この様な事情から九月十三日

